

核データ評価専門部会

核融合炉ワーキング・グループ

¹⁶O核データ・サブワーキング・グループ会合議事録

開催日時 昭和58年3月9日(火) 13:30~17:30

開催場所 リニアック棟集合室

出席者 田中茂也, 浅見哲夫, 中島 豊(原研), 村田 徹(NAIG), 神田幸則(九大)

配布資料

- (1) Young et al. LA-7663-MS (Informal Report)
Summary Documentation of LASL, Nuclear Data Evaluations for ENDF/B-V (事前送付)
- (2) 各種断面積資料
 - i) σ_{total}
 - ii) $\sigma_{el.}$, $\sigma_{inel.}$
 - iii) $\sigma_{reaction}$
- (3) ¹⁶O Evaluated Data File の比較
- (4) Lachkar et al. NEANDC(E) 168 "L", INDC(FR)-7/L Cの評価報告(参考資料)

議 事

- (1) ¹⁶Oについての討議

調査結果の報告が各担当者からあった。

σ_{total} (中島), $\sigma_{el.}$ (村田), $\sigma_{inel.}$ (田中), $\sigma_{reaction}$ (神田)

討議の結果, 以下のことを実施して, 重点的に評価すべき点を明らかにして評価値を求めることとした。

ENDF/B-Vはcovariance以外はB-Vのようであるので, 新しいデータと従来の評価値の比較が必要である。このために実験データと評価値のグラフを作成する。

(担当者: 浅見)

第1励起準位が6 MeVと高い。 $\sigma_{el.}$ の角度分布が重要と思われる。これを計算できるプログラムを調査する。(担当者: 浅見, 村田)

積分実験, 特に大学科研費グループの結果を調べる。(担当者: 神田)

(2) 本ワーキング・グループの活動内容についての検討

当面、前回ワーキング・グループで決めた核種についての評価を進める。

従来より進めて来た関連核種の実験値と評価値のグラフ集を作る。ただし、編集方式については検討する。他ワーキング・グループとの関連、核種毎の担当者の表示、ルーズ・リーフ方式等。

JENDLの核融合炉関係データの充実を考え、10 MeV以上の部分を主に見直してみる。そのためにも、上記グラフ集を作る必要がある。

他ワーキング・グループと性格が違うのは核融合炉研究段階に対応してやむをえない。ただし、JENDLの充実に寄与することの認識は持っており、それは当然と考える。